

# 浄泉寺報

第11号  
2017年  
報恩講



昨年の浄泉寺報恩講

## なにが有り難い？(一)

浄泉寺住職 望月廣三

俳句の神様と謳われた正岡子規まさおかし

規きがこんなことを言われている。

「自分は悟りは平気で死ぬことだとおもっていたが、それは間違いだだった。平気で生きることが悟

りだとわかった」。

この言葉を目にしたのは三十歳くらいときだったが、「ええ

……？」とおもった。信じられな

かったからである。ほんとだろう

か、平気で生きるなんて、できる

のだろうか……？ ずっと心に

懸かったのである。事実、心配事

や不安などがあると、人間誰しも

平気ではいられなくなるからだ。

癌の疑いがある、と医者から言わ

れただけで大の大人がさめざめ

と泣いたり、不眠症になった挙句、

朝方便所に立つてころび頭を強

打して、それが原因で亡くなった

人がいた。笑い事ではない。

こんな有様なのに、子規は「平

気」だという。平気で生きること

だという。もしそれが悟りなら私

などは到底悟れないとおもった

し、本当に子規はそんな悟りをえ

たのだろうか、文人一流の諧諷かいぎやくではないのか、とさえおもったことである。

ところがこの言葉が、私の心底

に深く突き刺さったのだ。私は

再来年卒寿さいらいねんを迎えるが、この歳ま

で棘とげのようにずっと心に突き刺

さっていたのだから、かれこれ半

世紀忘れることができなかつた

計算になる。なんという、しつこ

さであるか。我ながら呆れざるを

えない。しかし、有り難いことだ。

ようやく子規のこの言葉が理解

できたのである。「思いつづけれ

ば、願いは叶う」という慣用句が

あるけれども、願いが「叶う」の

ではなく、「叶えられる」のだろ

う。「叶う」というとおのれの知

恵や才覚さいかくということになるが、そ

んな話ではない。知恵や才覚で解

るわけがない。もしそうだとすれ

ばまさに傲慢かうまんというほかないだ

ろう。

努力しなければなにもはじま

らないことはあきらかだ。しかし

努力しつづけられる力は人力だ

けなのか？ 私にはそうはおも

えない。なにかを「しつづけよう」

とおもっても、つづけられないこ

とが多いだろう。つづけられるこ

とのほうが希有きゆうではないか。だと

すれば、持続じつぞくできる力は人間の知

恵や才覚さいかくだけではない、知恵や才

覚かくなど比べものにならない、もつ

ともつと大きな目に見えぬ力が

働いているではないか、とおもわ

れるのである。

それを私はいま、強く感じてい

る。半世紀という途方もない長い

年月が私をして私たらしめた、と

おもわれてならないのだ。

(つづく)

お内仏(仏壇)に座る ㊟ ～「報恩講」ってなんなん?～

報恩講とは、宗祖・親鸞聖人の御祥月命日(11月28日)を中心に勤まる法要で、京都の本山(真宗本廟・東本願寺)では、11月21日から28日まで勤まり、浄泉寺では12月に勤めています。親鸞聖人があきらかにされ、私にまで伝わった念仏(南無阿弥陀仏)の教えを聞き、そのご恩に身を粉にして感謝する、真宗門徒にとって、もっとも大切な仏事です。

お寺に身を運ばれるご縁はさまざまかと思えます。亡き方を通して私たちが教えられるのは、生死無常の我が身の事実と、事実は事実のままにそれを引き受けてイキイキと生きていく道があること。そのことを教えてくださった親鸞聖人を通して、私にまで伝わった仏法に、ぜひともこの報恩講をご縁に、お会いいたしたいと思えます。(浄泉寺若院・釋亜世)

平成30年(2018年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	平成29年(2017年)亡
三回忌	平成28年(2016年)亡
七回忌	平成24年(2012年)亡
十三回忌	平成18年(2006年)亡
十七回忌	平成14年(2002年)亡
二十五回忌	平成6年(1994年)亡
三十三回忌	昭和61年(1986年)亡
五十回忌	昭和44年(1969年)亡



報恩講を前にした11月の同朋会では、真鍮製の仏具のおみがきを行いました。各家庭のお内仏(仏壇)でも、大切な法要の前には、ぜひ“おみがき”を行うようにしたいものです。

浄泉寺からのお知らせ

● 同朋会 ●

浄泉寺では、毎月同朋会を開催しています。住職の法話をお聞きいただいた後、皆さんでお茶を飲みながらお話しします。

新年の一月は、修正会とみなさんとの新年会を兼ねて開催します。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお誘い合わせお参りください。

今後の詳細な日程は浄泉寺までお問い合わせください。

● 修正会後の新年会の様子



● 春のお彼岸  
お参りの日程は、三月上旬にお葉書でお知らせします。浄泉寺本堂での彼岸会にもぜひお参りください。

<発行元・問い合わせ>

真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43 電話 0799-22-4798